

科目名	現代の国語		学年	類型・コース	単位数
			1 年	全員履修・普通	2 単位
学習の目 標	論理的な文章および実用的な文章に触れて、実社会における国語による諸活動に必要な資質や能力を身につける。				
教科書 副教材	主たる教材：「新編現代の国語」（東京書籍） 副教材：「現代語練習帳ことのは」（いいずな書房）「明鏡国語辞典」（大修館書店）				
評 価	評 価 法	課題考査・定期考査・小テスト・各種課題・ノート等で評価します。			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	
		b	思考・判断・ 表現	論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	
		c	主体的に学習に 取り組む態度	言葉を通じて他者や社会に関わり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～10 の 10 段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5 の 5 段階）にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1学期	4月	6	読むことを通じて自己理解を深める。	筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。『ルリボシカミキリの青』【読むこと】	課題考査 定期考査 小テスト	課題考査 定期考査 課題	ノート 課題
	5月	8	分かりやすい説明をする。	場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いて、相手の理解が得られるように表現を工夫する。【話すこと・聞くこと】			
	6月	8	内容を検討して意見文を書く。	選んだテーマに関連する情報を集め、情報の妥当性を吟味しながら、自分の意見を明確にし、意見文を書く。【書くこと】			
	7月	4	評論を読み、関心の幅を広げる。	「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。『水の東西』【読むこと】			
夏休み				1学期の内容をもとに課題			
2学期	9月	8	新しい着眼や発想に触れ、視野を広げる。	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈し、自分の考えを深める。『スキマが育む都市の緑と生命のつながり』【読むこと】	課題考査 定期考査 小テスト	課題考査 定期考査 課題	ノート 課題
	10月	8	情報を整理して話し合う。	複数人での話し合いについて、進め方や注意すべきことを学び、実践する。【話すこと・聞くこと】			
	11月	8	働く人の思いを理解し、社会で生きる自己の将来を考える。	海での漁の様子を伝える文章を読み、自然の中での労働について理解を深め、将来の職業や働き方を考える。『真夏のひしこ漁』【読むこと】			
	12月	4	新聞記事を読んで意見文を書く。	記事の読み取りを踏まえ、根拠を明確にして意見をまとめる。【書くこと】			
冬休み				2学期の内容をもとに課題			
3学期	1月	6	周囲に広がる世界への理解を深める。	出来事の順序に着目しながら、戦時下の人々の状況と、作品に一貫する筆者の思いを読み取る。『りんごのほっぺ』【読むこと】	課題考査 学年末考査 小テスト	課題考査 学年末考査 課題	ノート 課題
	2月	6	読み手のアドバイスを生かして紹介文を書く。	助言をもとに推敲して、よりよい文章に仕上げる。【書くこと】			
	3月	4	資料を活用して発表する。	調べたことなどを共有したり、伝達したりするさまざまな発表の形式について知り、形式に応じて発表する力を身につける。【話すこと・聞くこと】			

担当者からのメッセージ（学習方法など）
毎時間授業の初めに漢字の小テストを実施します。積極的な授業への参加を期待します。